

有機質資源再生センター：主催

# 食リサロン・フォーラム 2013 を開催

平成 25 年 2 月 26(火)

13:30~16:30

主婦会館プラザ 17・クラフ

本年 2 月から偶数月の月末に開催して参りました食品リサイクルサロン(食リサロン)も丸一年を迎えることになりました。主婦連合会や中央畜産会のご協力も有り、食リサロンも毎回 30 名超の参会者と講師との熱い質疑の中で月日を重ね、社会における食品リサイクルへの理解の深化に多少なりともお役に立てたのではないかと思います。他方で、これまでリサイクル諸法の中では一番進展が遅れている「食品リサイクル法」の見直しが今まさにおこなわれております。画期的な新法、効果的な施策が望まれるところでありますが、我々一人ひとりもそれを唯傍観しているのではなく、自分として今何が出来るのかを考え、自ら行動することが求められているのではないのでしょうか。

食品リサイクルを更に進展させ未来社会に負の遺産を残さないために、これまでの参会者様にはこの 1 年学んだことを土台に次の一年を考えて戴くきっかけに、新たな参会者様にはこれを機会に食品リサイクルに取り組んで戴くきっかけにして戴きたい思いから、このフォーラムを企画致しましたので、皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

## 募集定員：100 名様 (どなたでも先着順に受け付け)

### ◆ 基調講演

13:35~13:55

「食品リサイクル法の見直しとそのゆくえ」  
(仮)

長野 麻子様

農林水産省食料産業局バイオマス循環資源課  
食品産業環境対策室長

### ◆ 特別講演

14:00~14:30

「食品廃棄物の発生抑制とリサイクル」

牛久保 明邦様

東京情報大学学長 / 東京農業大学名誉教授

### ◆ パネルディスカッション

14:45~16:30

「食品廃棄物の発生抑制とリサイクル」

— 未来社会のために我々は何をしなければならないか —

#### ■ コーディネータ

牛久保 明邦 東京情報大学学長 / 東京農業大学名誉教授

#### ■ パネリスト候補

高橋 巧一 小田急フードエコロジーセンター 顧問

阿部 邦夫 和郷園 顧問

百瀬 則子 ユニー 環境社会貢献部長

川上 康治 あずみ野エコファーム 社長

北山 誠 日本アケス 執行役員

\*\*17時から立食による簡単な懇親会がございます。ご出席をお待ちしております\*\*

## ◆ フォーラム出演者のプロフィール

### 長野 麻子 (ながの あさこ)

農林水産省食料産業局バイオマス循環資源課食品産業環境対策室長

1994年東京大学を卒業、農水省入省。構造改善局、林野庁勤務などを経て、平成11年から2年間フランスに留学。平成13年総合食料局食品産業企画課企画官として農水省に復帰。以降、バイオマス・ニッポン総合戦略検討チーム、消費・安全局、(株)電通出向、水産庁、内閣府食品安全委員会事務局出向を経て、本年1月食料産業局バイオマス循環資源課食品産業環境対策室長に着任。

### 牛久保 明邦 (うしくぼ あきくに)

東京情報大学学長、東京農業大学名誉教授

1972年東京農大を卒業。その後、大学院で博士号を取得した、土壌の専門家。早くから、土壌に絡む堆肥化の問題などに関与、農水省や環境省のリサイクル、廃棄物関連の審議会等の委員、座長を務めてきた。最近も多数の団員を引率して、英国やフランスの食品廃棄物の利活用最新事情調査を行ってきた。東京農業大学教授を退官後、東京情報大学学長に就任し、教育機関のマネジメントにも携わる。

### 高橋 巧一 (たかはし こういち)

小田急フードエコロジーセンター 顧問

1998年同類の飼料化センターを横浜に起業。その後、小田急グループの支援を得て小田急ビルサービス株式会社の一部門として食品リサイクルの飼料化のセンターを定着させる。首都圏の飼料化センターでは最大手のひとつで、この分野の先導役を担っている。個人としても、多数のコンサルティングを引き受け、循環型社会の進展に貢献している。獣医師。当財団理事。

### 阿部 邦夫 (あべ くにお)

(農)和郷園&(株)和郷 顧問

香取市を拠点に循環型農業を手掛ける農業関連企業の先行事例の1社「和郷園」の環境部門を永年担当してきた。また、同社の枠を超えて循環型社会構築の普及活動を続け、国連の下部組織である「欧州復興開発銀行(EBRD)」のTAMメンバーとしてバイオマスの利活用の指導をマケドニア、セルビア、キルギス共和国(現在も継続中)で行ってきた。その他、JGAPの導入と普及にも携わってきた。当財団理事。

### 百瀬 則子 (ももせ のりこ)

ユニー株式会社 環境社会貢献部長

ユニー株式会社入社後、2008年より、現職。環境を統括する環境社会貢献部を担当。同社は、リサイクルグループ商品の開発にも熱心に取り組んでおり、できた産品をプライベートブランドとしてグループを挙げて販売している先行企業の代表格。環境大臣賞をはじめ、数々の環境関連の表彰をうけている。当財団評議員。

### 川上 康治 (かわかみ やすはる)

あずみ野エコファーム 社長

長野県は安曇野に生まれ、育った農業者。父親から譲り受けた典型的な地方農家の農業から西欧式の飼育法による養豚を導入するなどの転換を図り、今年年商2億円を目指す。早くから、環境のことを意識した農畜産業を志向し、JAS有機の「ミント米」やエコフィード給飼による「優とん」はブランドが既に確立されつつある。「養豚をコアとした循環型プラント構築」が生涯目標と言い切る。(社)日本養豚協会理事、長野県養豚協会会長。

### 北山 誠 (きたやま まこと)

日本アクセス執行役員 CSR・法務・コンプライアンス部長

永年、同社の物流業務に従事。如何に商品鮮度を落とさずに保管し、効率的な配送を行うかに腐心する中、事業量の増加に伴い急増する商品廃棄に心を痛める日々を経験。50才を目前に法務審査に抜擢され、その後これにCSR推進が加えられて今日までこれらを担当。自社のCSRの根幹は食品廃棄量削減と食品リサイクル促進と位置づけ、これらを両輪に省資源に鋭意取り組んでいる。当財団評議員。